

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 20 日現在

機関番号：34401
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2012～2015
 課題番号：24593342
 研究課題名(和文)アトピー性皮膚炎女性の月経周期におけるスキンケア・メイクアップに焦点化した看護

 研究課題名(英文)A nursing care program of skin care and make-up based on menstrual cycle for atopic dermatitis female patients

 研究代表者
 カルデナス 暁東 (CARDENAS, XIAODONG)

 大阪医科大学・看護学部・准教授

 研究者番号：80434926

 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：成人期AD女性患者、皮膚症状のある成人期膠原病女性患者、成人期ドライスキン女性を対象に、皮膚状態の評価を行い、作成したリーフレットとDVDを用いて、月経周期におけるスキンケアの見直しを行った。また、カウンセリング手法を用いたメイクセラピーを行い、対象者の自己表現ができるようメイクアップについて指導を行った。結論として、本研究の月経周期におけるスキンケア指導、自己表現できるメイクセラピーが、ADのみならず、皮膚症状のある成人期女性患者の皮膚状態を改善し、ストレスを軽減することができた。本プログラムは、スキントラブルや外見上に悩みを抱えている女性患者のストレスの軽減に有効ではないかと考えられる。

研究成果の概要(英文)：A nursing program of skin care lesson and make-up therapy approach based on menstrual cycle was carried out for adult female patients with atopic dermatitis, dry skin and dermatomyositis who has skin trouble. The individual lesson about skin care was done after assessing the skin condition. And make-up therapy was carried out to help the patient to express themselves. After the program was finished the patients had better skin condition and lower stress. The program could reduce the stress level of female patients with skin trouble or appearance problem was suggested.

研究分野：慢性期看護学

キーワード：慢性看護 アトピー性皮膚炎 自己免疫疾患 膠原病 スキンケア ボディイメージ アピアランスケア

1. 研究開始当初の背景

アトピー性皮膚炎 (Atopic Dermatitis、以下 AD と略す) は、近年、慢性化が進み、成人期の患者の増加が目立ってきている。AD の特徴は寛解・増悪を繰り返すことにより、長期にわたり掻痒感が強く、顔面など露出部に皮疹の範囲が広がり、外見上の問題も生じることである。このことからその人と家族の生活の質 (Quality of Life、以下 QOL と略す) に影響を及ぼす。成人期女性は社会的生産、次世代の妊育などの社会的役割を担う時期にあるため、高いスキンケアスキルを持ち、質の高い社会生活を円滑に継続していくことが大切である。AD 成人のセルフケアの重要性が認識されつつあるが (中野ら、2005)、プログラム化されたスキンケア指導に関する研究はまだみあたらない。

AD 成人女性の場合は、黄体期では、皮膚の掻痒感・乾燥度の増強と皮膚角質層水分量の低下がみられた。また、スキンケア・メイクアップを間違えた手技で実施しており、月経周期におけるスキンケア・メイクアップに関する看護支援へのニーズを持っていた。さらに、顔面の皮膚病変のため、健康な女性と同様に、自由にスキンケア・メイクアップ用品を使用することができない悩みを抱えていることがある (カルデナスら、2012)。

女性は、性ホルモン分泌の周期的な変化によって、生殖器の変化以外に身体面、精神面および行動面に様々な変化が生じる。例えば、卵胞期では、エストロゲンは多く分泌され、皮膚角質層水分量が保持され、皮膚の潤いが保たれる。しかし、黄体期では、プロゲステロンが多く分泌されるため、体温の上昇、発汗、皮脂分泌量の増加、便秘・腹部膨満感の増強、不安傾向等の全身性変化がみられる (山本ら、1998; 丸山ら、1997; 前原ら、1995)。これらの周期的に生じる全身性変化を考慮したスキンケア・メイクアップスキルの指導は、AD 女性の症状改善、QOL の向上につながると考えられる。

本研究の看護支援プログラムでは、治療に伴うスキンケアを根幹とし、メイクセラピー手法を用いて、指導を行う。メイクセラピーは、メイクアップスキルの指導のみでなく、女性は自分に関心、自信をもたせる関わりが特徴である (<http://www.maketherapy.com/>)。高木修 (2009) は、化粧 (以下メイク) は、メイクすることによって、自分への関心を強め、自尊心の維持に結びつけることができると述べている。AD 女性のメイクは、健康な女性あるいは母斑のある女性のメイクと異なり、皮膚病変をカバーすることは望ましくない。その原因には、カバー力が高いメイクアップ用品は皮膚への負担・刺激も大きいことが挙げられる。このことから、AD 女性のメイクアップスキルを高めるためには、疾患・治療に関する専門知識をもつ看護職が重要な役割を担っている。

上記のように、AD 女性の QOL を高めるには、

治療に伴うスキンケアに関する看護支援を根幹とし、疾患・治療・女性の月経周期を含めた個性性を考慮したスキンケア・メイクアップスキルに関するプログラム化された看護支援も同時に行う必要がある。

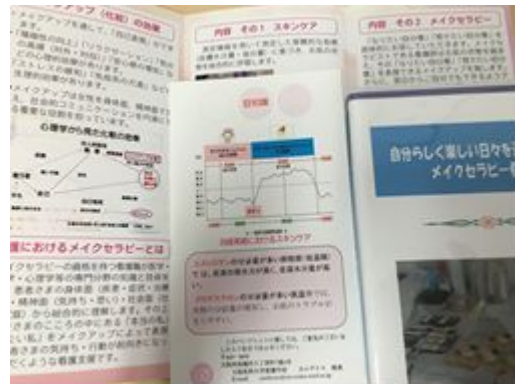
2. 研究の目的

1) 女性の月経周期におけるスキンケア・メイクアップスキルを高める教育媒体を作成する。

2) 作成した教育媒体を用いた看護支援プログラムを開発し、開発した看護支援プログラムの有効性を検証する。

3. 研究の方法

1) 月経周期における皮膚状態を含む全身的な変化、それに応じたスキンケアの工夫等の内容によって構成されたリーフレットを作成した。また、自己表現のためのメイクアップの方法、皮膚状態を生理学的指標による評価方法等の内容によって構成された DVD を作成した。



2) 研究対象者

(1) 成人期 AD 女性患者 (初年度)

(2)(3) は拡大・追加した対象者である

(2) 皮膚症状のある成人期膠原病女性患者

(3) 成人期ドライスキン女性

3) 具体的方法

対象者に対して、皮膚状態の評価を行い、作成したリーフレットと DVD を用いて、月経周期におけるスキンケアの見直しを行った。また、カウンセリング手法を用いたメイクセラピーを行い、対象者の自己表現ができるようメイクアップについて指導を行った。さらに、対象者の要望に応じてリラクゼーション方法として呼吸法について説明し練習した。スキンケア指導の効果は皮膚状態の生理学的指標 (油分量・角質層水分量) の変化を用いて評価した。メイクセラピーの効果は POMS、STAI、唾液アミラーゼ量の変化を用いて評価した。患者の要望に応じて、終了 1 か月後、3 か月後にフォローアップを行った。収集した諸データは Windows 版統計ソフト SPSS21.0J を用いて統計分析を行う予定。

4. 研究成果

1) 対象者の属性:

成人期 AD 女性患者 4 名、皮膚症状のある成

人期膠原病女性患者 5 名、成人期ドライスキン女性 4 名が本研究に参加した。全員 20～40 代の女性であった。

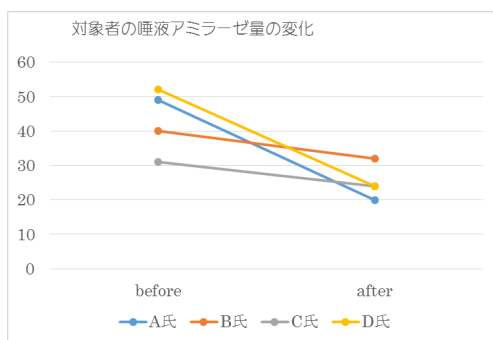
2) スキンケア指導：

皮膚の生理学的指標、リーフレットと DVD を用いたスキンケア指導について、全員から分かりやすいといった回答が得られた。これまでに月経周期に合わせて、スキンケアを工夫した患者は 1 名のみであった。洗顔方法、保湿剤の塗布方法は患者が使用しているものを使って、デモンストレーションを行った後、実技練習を行った。1 名の AD 女性患者と 1 名の膠原病女性患者を除き、他の対象者全員は 1 ヶ月後、3 か月後の皮膚の生理学的指標において、油分量・角質層水分ともに改善がみられた。

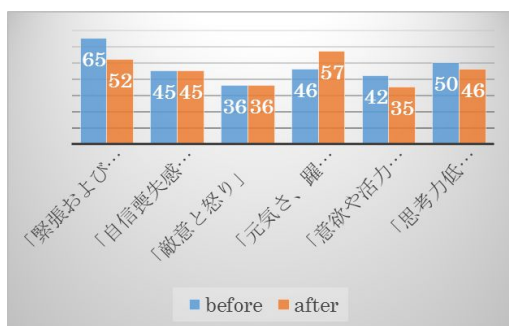
3) メイクセラピーの効果

対象者に対して、カウンセリング手法を用いて、表現したい自己像について語ってもらい、その「自己像」を表現するよう対象者が持って生まれた顔のパーツバランスを活かし、メイクアップを施した。結果、1 名の膠原病患者、1 名のドライスキン女性を除き、他の対象者は POMS スコア（「緊張 不安」「抑うつ 落ち込み」「活気」）の改善、唾液アミラーゼ量の減少がみられた。STAI スコアにおいては、「特性不安」2 名、「状態不安」6 名が軽減された。

下記の図は 4 名の AD 患者の唾液アミラーゼ量の変化を示したものである。



下記の図は 1 名の膠原病患者の POMS スコアの変化を示したものである。



4) 結論として、本研究の月経周期におけるスキンケア指導、自己表現できるメイクセラ

ピーが、AD のみならず、皮膚症状のある成人期女性患者の皮膚状態を改善し、ストレスを軽減することができた。今後、化学療法等の治療の副作用による外見上に悩みを抱えている女性患者にも有効ではないかと考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4 件)

1) カルデナス暁東 (2016): アトピー性皮膚炎女性のスキンケア・メイクアップに焦点化した看護(総説), BIO Clinica 31(2), 64 - 69 頁.

2) カルデナス暁東, 森脇真二, 田中克子, 河嶋公美子 (2015): メイクセラピーを融合したスキンケア指導を通して生活の質を高めたアトピー性皮膚炎成人期女性患者の 1 例, 大阪医科大学雑誌, 第 74 巻, 第 1,2 合冊号.51-55 頁.

3) カルデナス暁東, 大塚俊宏, 森脇真二, 榎野茂樹, 西尾ゆかり, 田中克子, 河嶋公美子 (2014): ボディイメージの再形成に向けたメイクセラピーを取り入れた看護ケアを実施した皮膚筋炎女性患者の 1 例, 査読有、大阪医科大学雑誌, 第 73 巻, 第 3 号, 25 - 29.

4) カルデナス暁東, 西尾ゆかり, 福井奈央, 田中克子, 森脇真二, 末原紀美代 (2013): わが国の医療現場におけるメイクセラピーの応用に関する文献的研究, 査読有、大阪医科大学看護研究雑誌, 第 3 巻, 69 - 77.

〔学会発表〕(計 3 件)

1) 塚原光子, 西尾ゆかり, カルデナス暁東 田中克子 (2015): 成人期におけるアトピー性皮膚炎患者に関する看護研究の動向, 第 9 回日本慢性看護学会学術集会, A76.(高槻), 2015 年 7 月 5 日.

2) 櫻本弓恵, カルデナス暁東, 田中克子, 西尾ゆかり (2015): 成人期アトピー性皮膚炎患者のストレス内容に関する文献的研究, 第 9 回日本慢性看護学会学術集会, A76.(高槻), 2015 年 7 月 5 日.

3) カルデナス暁東, 田中克子, 西尾ゆかり (2015): 皮膚症状のある成人期女性患者の精神心理状態の改善をもたらすメイクセラピー看護援助, 第 9 回日本慢性看護学会学術集会, A61.(高槻), 2015 年 7 月 5 日.

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

取得状況 (計 0 件)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

カルデナス 曉東 (CARDENAS, Xiaodong)

大阪医科大学・看護学部・准教授

研究者番号：80434926

(2) 研究分担者

森脇 真一 (MORIWAKI, Shinichi)

大阪医科大学・医学部・教授

研究者番号：40303565

福井 奈央 (FUKUI Nao)

元大阪医科大学・医学部・助教

研究者番号：80625880

(3) 連携研究者

末原 紀美代 (SUEHARA, Kimiyo)

元大阪府立大学・看護学部・教授

研究者番号：90112044